

1. 主題と先行研究

形容詞とは、動詞と名詞の間に位置し、動詞・名詞双方の特徴を持ち、名詞を直接修飾する機能があると説明されている(Croft 1991, 2001; Dixon 1977, 2005(1991); Langacker 2002; Ross 1972)。統語的特徴や意味的役割などからの分類はあるが、英語には語彙化された(lexicalized、ここでは「辞書に収められた」の謂)動詞/名詞派生の形容詞が存在する以上、それらも含めて包括的に論じる必要がある。

篠原(2002)は形容詞使用時の概念化者のメトニミ的事態把握を説明し、仲本(2006)は Lakoff(1987)の「相互作用的属性」という捉え方を引き、フレーム意味論(Fillmore 1982)やアフォーダンス理論(Gibson 1979)を援用しながら形容詞を論じなければ、形容詞の意味研究は進展しないと主張する。

本稿では、形容詞がどのような概念構造をもっているか、*calculating* や *heartbreaking* のような語彙化された V-ing 形容詞について考察し、抽象度が高く、概念化者の評価を多分に含んでいることを解明する。

2. 接尾辞-ing と形容詞

V-ing には名詞(動名詞)と形容詞(分詞)があるが、Hiraiwa (2010)で論じられるように、名詞よりも形容詞としての用法が元である。Croft の Semantic map に見るとおり動詞と名詞の間に形容詞があり、V-ing はこの中に含まれる(Croft 1991, 2001)。

-Ing による imperfectivization は、不均質な要素から成り立つ一連の process の内部のある一場面を焦点化し、その他の要素を捨象する概念化である(Figure 1(a))。

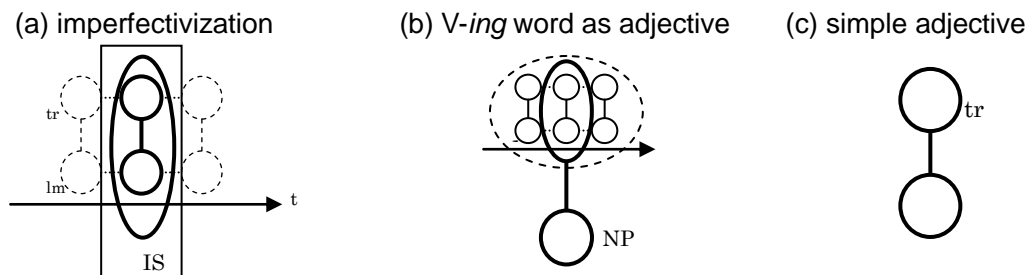


Figure 1: Imperfectivization and its adjectival use, as a resolution of Langacker's RELATION

形容詞の imperfectivized entity(Figure 1(b))は、修飾する名詞が表す領域内から一番の際だちを認められる属性を言語化したものである。篠原(2002)は、形容詞を介して行われる「もやもやした感覚の中から複数の中核を求めるプロセス」こそがメトニミ的認知であると説明している。これは参照点構造と同じ事態把握である。篠原(2002)はこれを形容詞文における主語選択に適用し、Langacker(1999)は active zone の考え方をを用いて名詞選択の場合に限定しているが、本稿では形容詞による名詞修飾に応用させて考えたい。参照点はターゲットに到達する手がかりである。一方形容詞も、話者が修飾する名詞を「どのような際だち(属性)を持つものと捉えているか」を聞き手に伝える参照点であると考えられる。

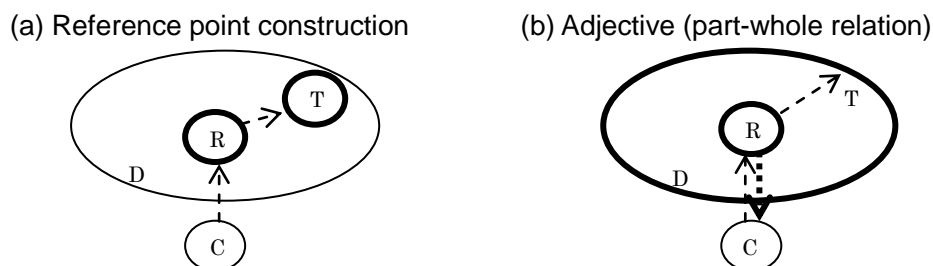


Figure 2: Reference point structure (Langacker 1999: 174) and adjectival reference point

形容詞は、名詞(ターゲット)の内部にある属性と考えられる一方、話者の判断を多く含む。篠原(2002)は情態/情意形容詞を分類しているが、形容詞自体は、情態/情意のどちらかに傾いているというよりは中立的立場にあり(*This book is difficult.*)、使われる構文/文脈によって話者寄りの形容詞なのか(*This book is disgusting.*)外界寄りの形容詞なのか(*This book is grey.*)が判断される。参照点(形容詞)を介するアフォーダンスを Figure 2(b)では下方向の破線矢印で表している。形容詞は概念化者の介在なしには考えられないので、Figure 1(c)のような図式化に加えて Figure 2(b)のような視点も必要である。

3. V-ing adjectives in the lexicon

統語的作用として V-ing を用いることもあるが、全ての V-ing 形容詞が辞書に載るわけではない。語彙化する V-ing 形容詞と、しないものの違いは何だろうか。ここでは Oxford Dictionary of English Second edition の見出し語で考察する。

この辞書には 605 項目の V-ing 形容詞が掲載されているが、形と数の上で目立つのは、複合語形成要素 *self* の付くものと、否定の接頭辞 *un-* の付くものである(*self-V-ing* が 44 項目、*un-V-ing* が 95 項目)。いずれも文法化の結果 V-ing を「形容詞」として再分析し、中でも「自発的に」行為が行われることに意味のある単語には *self* が付加され、「そういう様相ではない」ことが重要性をもつ概念については *un-* が付加されている。実際、語彙化された *un-V-ing* の 54.7% は、*un-* なしの V-ing 形容詞が語彙化されていない(*unflagging*, *unwinking*)。

N-V-ing は 71 項目ある。*self-V-ing* とは異なり、[V+N] という項構造からの文法化の過程を経ている。このタイプの特徴は、より抽象化された意味にある。例えば *heartbreaking* は本当に心臓が壊れる訳はなく、(1b)のようにパラフレーズできる。

(1)a. *This was a heartbreaking decision for the princess to make.* (BNC)

b. *This was as severe a decision as broke her heart for the princess to make.*

N-V-ing による名詞修飾は、[V+N] で表される事象の内部を均質的なものと捉え、*relation* のみを抽出していると考えられる。Agent が言語化されていないこと、V-ing の動作主を解釈に許さないこと((2b)は「彼女(agent)が死(N)を扱う(V)スピーチ(をした)」と解釈できない)、recipient である N に形容詞が付かないこと(2c)からも明らかで、N-V-ing の N も V も抽象度が高く、Figure 1(b)とも整合する特徴である。

(2)a. *As an economic resource it is stripped and cut into, mined for its death-dealing uranium.*

(American Indian Quarterly)

b. **Her death-dealing speech was inappropriate at the wedding party.*

c. **the violent-death-dealing abuse*

また V-ing 単純形には、V が表す動作を名詞修飾的に使っている(3a)だけでなく、概念化者の評価を含む形容に拡張しているもの(3b)が多い。

(3)a. *An alternative way of calculating NI contributions is to use the exact percentage method instead of the tables.* (BNC)

b. *Albert Speer, the ambitious, calculating, and rational power technician* (BNC)

この考え方は Figure 2(b)と整合する。

主要参考文献

- Croft, William. 1991. *Syntactic categories and grammatical relations: the cognitive organization of information*. Chicago: The University of Chicago Press.
- _____. 2001. *Radical construction grammar: syntactic theory in typological perspective*. Oxford: Oxford University Press.
- Dixon, R.M.W. 1977. 'Where have all the adjectives gone'. In *Janua linguarum*. Series major; 107. Berlin: Walter de Gruyter.
- _____. 1991/2005. *A semantic approach to English grammar*. Oxford: Oxford University Press.
- Langacker, Ronald W. 1991. *Foundations of cognitive grammar, volume 2, descriptive application*. Stanford: Stanford University Press.
- _____. 2008. *Cognitive grammar: a basic introduction*. Oxford: Oxford University Press.
- 仲本康一郎 2006. 「属性の意味論と活動の文脈——椅子が荷物になるとき——」. 大阪大学『日本語・日本文化』第 32 号
- Ross, John Robert. 1972. 'The category squish: Endstation Hauptwort'. In P. M. Peranteau, J. N. Levi, and G. C. Phares (Eds.), *Papers from the Eighth Regional Meeting of the Chicago Linguistic Society*, 316-328.
- 篠原俊吾 2002. 「悲しさ」「さびしさ」はどこにあるか」西村義樹編『認知言語学 I : 事象構造』東京大学出版会